

03

未来へあゆむ

価値ある文化を守りつつ、
豊かな未来へ一歩を踏み出す



Values 価値観

People ——— 私たちは大切な人に誇れる仕事をします
Governance ——— 私は社会に評価される行動を取り続けます
Social ——— 私はお客様と一緒に、価値を創造し展開します
Environment ——— 私は未来を想い、未来の仕組みをつくります

WAY 行動指針

netone、一歩先へ

- 不祥事を忘れない
- お互いに半歩踏み込む
- ワクワクを広げる
- 誠実に丁寧に
- 失敗も成功も次への糧に
- 期待値を超えていく
- 心と体を大切に
- 進化し続ける「匠」

*WAY: 仕事をする上での考え方や判断・行動の基本を明文化したもの



一歩先へ 未来を創る企業文化



齋藤 純

東日本第3事業本部
第2営業部 第3チーム
マネージャー

塩屋 晶子

ビジネス開発本部
イノベーション推進部
技術開発チーム
エキスパート

小川 裕隆

東日本第2事業本部
第2営業部
部長

北本 大悟

ネットワークパートナーズ
セールスエンジニアリング部
第1チーム
マネージャー

赤澤 哲也

管理本部
人事部
副部長

当社グループの企業文化改革活動を推進してきた5名のメンバーが一堂に会した座談会。

各メンバーの活動への想いや信念をはじめ、根源的な当社グループのDNAや、継承すべき企業文化、そして当社グループのありたい姿について、熱い議論が交わされました。

1 企業文化改革活動に 込めた想い

— これまでの企業文化改革活動の概要について教えてください。

赤澤 2020年にビジネスモデルや環境の変化を踏まえ、従来のビジョンの再編集を含めた企業文化改革活動のルーツとなるビジョン浸透活動がスタートし、その活動を受け継ぐ形で2022年にPurpose、Mission、Vision、

Values、そしてWAYからなる新しい企業理念体系を策定しました。その後、社内で募った有志による取り組みを開始し、「共感・共鳴・共振」という企業理念の浸透プロセスを打ち出しました。これまでに自分自身が企業理念に「共感」のフェーズに達することができ、現在は他者の理念に基づく行動に「共鳴」するフェーズにあります。今後は社内での共鳴を超え、外部からも「理念を体現している」と認識される「共振」

に進んでいくことを目指していきます。

— どのような想いで企業文化改革を推進されてきましたか。

北本 私は、2020年からビジョンの再編集に携わって以来、理念浸透メンバーとして活動に参画しています。当時の委員長だった竹下さんとの1on1で「ネットワークをもっとよい会社にしていこう」という熱い想いに共感し、今も活動を続けています。新卒で入社して

15年目になりますが、当社の助け合う、チャレンジする、お互いに成長し合うという文化が好きで、この会社に入ってよかったと心から思いますし、視座を高め、視野を広げることができ、確かな成長を実感しています。

小川 2010年に中途で入社しましたが、入社前に外から見ていたネットワンは本当に強かったんですね。しかし、徐々にネットワークの強さが薄れてきていると感じていたときに、企業理念浸透活動がスタートしました。そこで「強いネットワークを取り戻す」という想いで即座に応募しました。

塩屋 理念浸透活動に参画して2年が経ちました。2024年度は「WAY伝播チーム」として、改めてWAYを正しく理解して、共通認識を持って次のステージに進んでいくための活動を行ってきました。活動に参画するまでは企業文化をあまり自分事として考えることができていなかったのですが、自分が推進する立場になったことで見方が変わり、自分自身も成長できていると感じています。

齋藤 会社がターニングポイントを迎えていた2022年、私が当社に入社して10年目の節目に、視座を高く持って全社的な取り組みに貢献できれば自分



自身も成長できると思って参画しました。2022年は全社活動メンバーとしてWAYのピクトグラム作成に携わり、2023年以降は本部大使として施策を検討し、本部内の企業理念浸透活動を推進しています。

— 印象的な出来事や活動の中で工夫したことを教えてください。

北本 2020年度にビジョンを再編集し、新たに4つの行動指針を策定しました。その翌年にWAY策定プロジェクトがスタートしましたが、4つの行動指針と新しく策定するWAYとの違いや策定の目的を明確にすることに苦労しました。WAY策定メンバーと議論を重ね、4つの行動指針を「価値観(Values)」へと位置づけを変更の上、WAYを「行動指針」とすることを会社に提言し、現在の企業理念体系のかたちになりました。これはメンバー全員がネットワークのことが大好きで、もっといい会社にしたいという想いがあったからこそ成し遂げることができたと考えています。

小川 WAYは営業の仕事上でもとても重要で、8つのWAYを実践できている人は優秀な営業として周囲からも認められます。そのため、私は営業現場に対して、WAYの実践を強制するのではなく、目的やメリットを伝えるように意識しています。

塩屋 企業文化改革の施策検討において、どれか1つのWAYを実行すればよいのではなく、8つのWAYすべてを自分事と考えて体現することが重要だと考えました。そこで、社員全員がWAYを正しく理解し、自分の行動と結び付けてもらうための仕組みづくりとして、WAYの成り立ちや込められた想いについて紹介するページを開設したり、



社内のポータルサイトのプロフィール欄に「8つのWAYに対する行動宣言」の項目を追加し、8つのWAYすべてに対する行動を宣言してもらいました。8つのWAY「すべて」を実行することが、企業文化を醸成・発展させ、それにより当社の勝ち筋に導くことができるという共通理解を広めていくことができたと考えています。

齋藤 活動メンバーになる前は、実はあまり自分事として捉えることができていませんでした。この活動に参画して初めて、WAYの一つひとつの言葉に想いが込められていることを知り、その想いを浸透させていきたいと考えるようになりました。そして、WAYを目にする機会を増やし、親しみを持ってもらえるように、WAYをピクトグラムで表現する取り組みを進めました。その後、本部内の企業理念浸透活動では、部門間のコミュニケーション活動をする際に必ず施策とWAYを紐づけるように工夫しています。それによりWAYの具体的なイメージを持ってもらい、行動の中で自然に浸透していくように働きかけています。

2 ネットワンの DNAについて

— 皆さんが考える「ネットワークらしさ」をお聞かせください。

赤澤 企業文化改革活動を立ち上げる



と、自発的に手を挙げてくれる人が集まることは当社のよさの一つだと感じています。全社の活動はもちろん、各本部でも自発的に取り組んでいるのは本当にすごいことだと思います。私は理念を軸に活動する人たちを支える立場になりたいと思っているので、こういった活動に楽しみながら取り組んでもらえることがうれしいですし、自分も楽しいですね。メンバーは毎年入れ替わりますが、毎年カラーが違って、毎年前向きに突き進むパワーを持っています。これがネットワンのDNAそのものだと思います。

小川 当社の社員は、本当に真面目で、誠実で、何事にも逃げずに立ち向かって必ず完遂します。それこそが当社が



選ばれ続ける理由だと思っています。

齋藤 同じベクトルを向いたときのネットワンってものすごく強くて、格好いいと思っています。何事にも絶対逃げないし、一致団結してやり抜くエネルギーが本当にすごい。昔、現場で障害が起きたときに、先輩たちが一丸となって原因の特定と解決に向けて奮闘している姿がとにかく格好よかったことをよく覚えています。

北本 確かに、期限や目標が決まったときは特に強くて、そこに向かって必ずやり切るという推進力はすごいですね。

塩屋 私も結束してまとまったときの行動力は、ネットワンらしさだと思っています。それに加えて、自由な空気感もネットワンらしさの一つだと思っています。手を挙げたら何でもチャレンジさせてもらえますよね。

齋藤 営業現場でも、まずチャレンジして頑張ってみようという風土があります。現場のアカウント営業とSEが、担当としてやってみたいことをアカウントプランとして発表する場はみんなに協力を仰ぐ場になっていて、そういう経験ができるのは本当に有益だと感じています。

赤澤 企業理念浸透のための「Vision Day」というイベントでもボトムアップ

でアイデアが出てきて、アグレッシブな企画も結構多いのですが、止められることはありません。

北本 市場にいち早くタッチしていくのも当社の強みだと考えています。テクノロジーに対する先見性があった上で、やり抜いていく。経営統合後も、そうした当社のよい文化を継承して広めていきたいですし、もちろん相手のよいところも取り入れてアップグレードしていきたいと思っています。それから、社内では誰に対しても「さん付け」で、もちろん社長も「竹下さん」と呼びます。そのような風通しのよさも文化として残したいです。

3 これからのネットワンへの期待について

——「共感」から「共鳴」フェーズの移行に向けて、今後取り組んでいきたいことをお聞かせください。

赤澤 あるべき姿を目指していく中で、「相手を称賛していく文化」も育てていく必要があると考えています。ここ2～3年は称賛をテーマにして、サンクスカードの取り組みを進めていますが、まだ全社の2割程度しか活用されてい

ない状況にあります。共鳴とは、相手の行動に対して共感することなので、称賛が共鳴につながっていくように盛り立てていきたいです。

齋藤 部門を超えた称賛は本部の中でも伝えています。本部内のサンクスカードの利用者も増え、実績として現れてきました。2025年度も継続して推進していきたいですね。本部での活動は、今までマネージャー層が主体的に推進していましたが、2025年度からは若手や希望者を中心とした立候補制にしました。2025年度は、メンバーのやりたい、やってみたいという意見を吸い上げながら、新しい施策を検討しています。

塩屋 私は、ピクトグラムを用いた「WAY伝播ステッカー」を作成・配布し、WAYをより身近に感じ、伝播させる仕掛けをつくってきたので、WAYをベースに動く文化が自然に広まっていくよう取り組みたいと考えています。また、共鳴という観点では、一人ひとりが自発的かつ積極的に動いていくことによって、周りにポジティブな影響を広めていくことが大切だと思っています。

小川 WAY浸透には、いかに自分事として捉えられるかが必要だと考えています。メンバーとして活動することで、



当事者として理解が早まり、腹落ちもしやすくなります。より多くの社員に浸透を図るためには、活動に参加して感じたことを広く伝える人を増やすことが大切だと思っています。

北本 私も同感です。いつか社員全員が理念に関する活動に何かしらの形で関わることができれば、理念浸透がすぐ進むと思います。また、会社としての方向性も共有でき、Purposeの実現に向けても足並みがそろって考えています。

——最後に、今後の「ネットワンのありたい姿」をお聞かせください。

北本 私たちは、人とネットワークの可能性を見出して、人をつなぐネットワークを信じ、新しい技術を広めてきました。そして、新しい技術に挑戦するというDNAや、日本のICTインフラを築き上げてきたというプライドを持っています。設立以来、ネットワンが日本のICTインフラを支えてきたからこそ、今の豊かな日本があると捉えています。今後も豊かな未来の実現を牽引していく気概を持って成長し、進化し続けていきたいと考えています。そして、家族を含めて大切な人に誇れる会社であり続けたいです。

塩屋 私は、お客様から選び続けてもらえる会社でありたいと考えています。当社が選ばれる背景には、お客様と「人」としてつながりがあるかだと思っています。私が長く当社で続けてこられたのも人とのつながりがあったからこそなので、これからも人とのつながりを大切にしながら、その輪を広げていきたいです。

齋藤 統合後もネットワンのDNAを大切にしながら、その輪を広げていきたいですね。企業規模が大きくなることで、できることが広がり、事業を通じた



社会貢献もさらに大きな規模で実現できる可能性があると考えています。今後、よりよい未来の実現に大きく貢献できるよう邁進していきます。

小川 経営統合すると、物理層からアプリケーションまでを業界トップの品質で提供できる唯一無二の存在になり、圧倒的な差別化ができると期待しています。一方、企業文化については、この数年間で変わりました。以前は個人の力が強かったですが、今は一人の力ではなく、お互い協力し合うことで個人の力が集合体となり、組織としてより強い力を生み出せるようになりました。こうした改革による変化は当社の新たな強みになっているので、経営統合後も企業文化改革活動を根強く継続していきたいです。

赤澤 私たちの事業は、ICTによる多様な社会変革の下支えとなってきました。これからもそうした革新を支えていくためには、多様な人が集い、活躍できる会社になることが重要です。そして、その人たちが未来を支える人財になり、振り返ったときに「私たちが日本のICT社会を支えてきた」と誇れるような会社にしていきたい。ただ、多様性も必要ですが、企業理念という会社の軸になるものは外してはいけません。私たちの軸であるPurposeに共感してもらい、一緒に豊かな未来を支えていく。そんな会社にしていきたいです。

株式会社オブテージ
技術本部 技術イノベーション部 部長



藤田 大作 様

当社は、ネットワンシステムズ様とデジタルツインを活用した共創プロジェクトに取り組みました。共創を推進するプログラム『netone Co-Creation』の枠組みにより、組織の壁を越えて技術とナレッジを融合させ、新たな価値を創造できました。会社や部門、年代を超えた議論は、当社の若手社員にとって貴重な経験となり、イノベーションには多様な視点や人との繋がりが不可欠だと実感しました。

今後も共創による新たな価値創造に挑戦していきたいと思います。

これからの ネットワンに 期待すること

シスコシステムズ合同会社
社長執行役員



濱田 義之 様

ネットワンシステムズ様は高度な技術力とお客様に寄り添う現場力を強みに、シスコジャパン創業時より30年以上にわたり社会と企業の課題解決を通じて、日本社会の変革を支えてこられました。近年では複雑化・多様化する顧客ニーズに応えるべく、次世代のデジタルサービス実現に向けて着実な変革を遂げられています。

今後も共に挑戦を重ねながら、日本の持続的成長と社会変革へのさらなる貢献を果たしていけることを心より期待申し上げます。

株式会社大分フットボールクラブ
社長室 室長



内野 良純 様

2009年よりユニフォームスポンサーとして長年のご支援、誠にありがとうございます。2020年からはソーシャルアクションパートナーとして、共に社会貢献活動や地域課題解決に取り組み、2024年には産官学連携で“人々の交流を促し大分を元気にする”をテーマとしたソーシャルアクションデーを開催しました。今後も持続可能な社会の実現に向けて共に歩んでいきたいと思っています。

培ってこられた専門性と技術力を基盤に、ネットワンシステムズ様のさらなるご発展を期待しています。

国立大学法人弘前大学 副理事
情報連携統括本部 情報基盤センター センター長
大学院理工学研究科 教授



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

今井 雅 様

大学における教育・研究活動を支える情報基盤システム及び学内LANの安定運用は、円滑な業務遂行や学術成果の創出に直結する極めて重要な要素であり、保守・管理にご尽力いただいているネットワンシステムズ様には深く感謝申し上げます。

ネットワーク上の脅威の多様化により、これまで以上の警戒と対策が求められる中、今後も専門的な知見と迅速な対応力をもって、安全かつ信頼性の高い運用体制の維持・向上を引き続きお願いいたします。

パロアルトネットワークス株式会社
代表取締役会長兼社長



アライ ヒロシ 様

共に創る未来 期待の先へ

ネットワンシステムズ様は、高度な技術力と深い顧客理解で日本市場を常にリードされています。特に、最新のセキュリティ技術をいち早く取り入れ、実運用に落とし込む姿勢に大いに刺激を受けています。当社との協業では、Cortex®XDRのサービス提供をはじめ、クラウドセキュリティ分野で多くの先進事例を共に実現してきました。

今後も、日本のサイバーセキュリティの未来を共に切り拓くパートナーであり続けたいと願っています。

学校法人 法政大学専門職大学院
イノベーション・マネジメント研究科 准教授



法政大学ビジネススクール
イノベーション・マネジメント研究科 准教授
Hosei Business School of Innovation Management

大塚 有希子 様

ネットワンシステムズ様には学部向けのICT講座や専門職大学院向けのビジネス講演を継続的に提供いただき本校学生の人材育成に貢献していただいております。2025年度からは、さらなるパートナーシップ強化の一環として、実在の企業を対象とした共同プロジェクトもスタートすることができました。

今後は本校とネットワンシステムズ様がICT+ビジネスでさらなる共創を実現していくことで、産学連携を強化し、社会貢献とイノベーター育成を加速させることを大いに期待しております。

絶え間なくつながる“価値連鎖” 一人ひとりの挑戦が、組織を変え、未来を拓く

インプットを受け止め、磨き上げ、創意工夫を重ねることで、より価値の高いアウトプットが生まれます。
そのプロセスの積み重ねが、私たちのあゆみであり「価値連鎖」です。

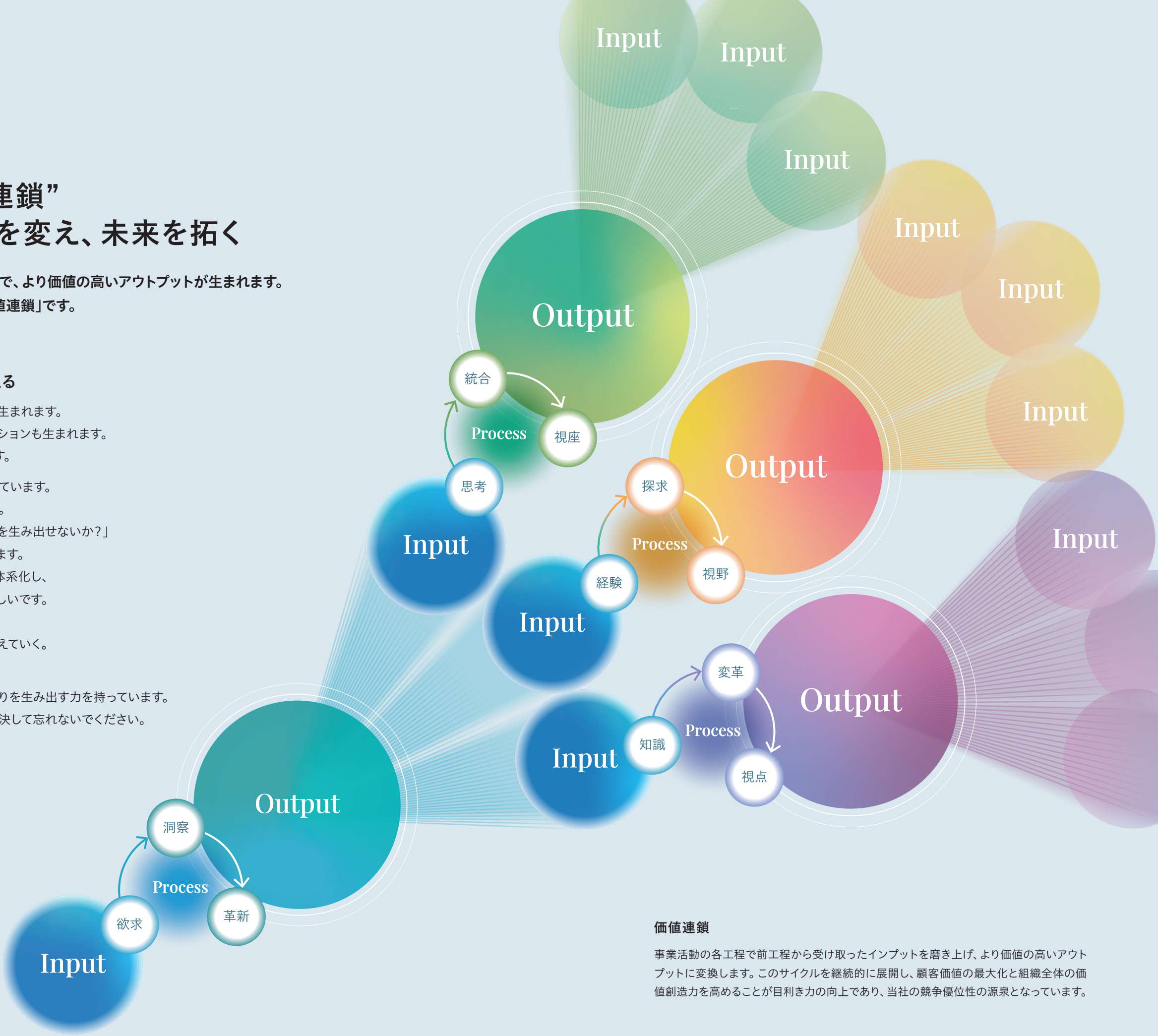
人と人のつながりが価値を生み出し、社会を変える

価値は一人で生み出すものではなく、多くの人との連鎖によって生まれます。
プロセスを磨くほど効率性と品質が向上し、その過程でイノベーションも生まれます。
つながる輪が広がることで、価値はさらに大きく成長していきます。

このように価値の連鎖は誰もがプロセスに関わることで成り立っています。
現状で満足すれば、そこで価値の連鎖は断ち切られてしまいます。
「もっと工夫できる余地はないか?」「より短時間で質の高い成果を生み出せないか?」
こうした一人ひとりの改善の積み重ねが、プロセス全体を強くします。
プロフェッショナルである皆さんには、既存の知識を「型」として体系化し、
それを打ち破って新しいことに挑戦し、新たな価値を創造してほしいです。
恐れず立ち向かい、新たな「型」を生み出してください。
そして、つながりを大切にしながら次の人がその「型」をさらに超えていく。
この連鎖こそが成長の源泉です。

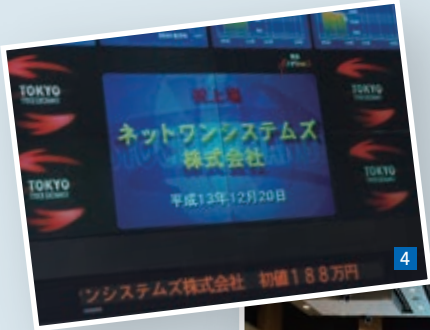
私たちは、ネットワークインテグレーターとして、人と人のつながりを生み出す力を持っています。
現在の成功が多くの人とのつながりによって築かれていることを決して忘れないでください。
社員一人ひとりが価値連鎖をさらに磨き上げ、
社会へと広げていくことで、私たちの可能性はさらに広がります。
皆さんと共に変化に挑戦し続けることで、
豊かな未来を築いていけることを期待しています。

代表取締役
社長執行役員
最高経営責任者 (CEO)
竹下 隆史



価値連鎖
事業活動の各工程で前工程から受け取ったインプットを磨き上げ、より価値の高いアウトプットに変換します。このサイクルを継続的に展開し、顧客価値の最大化と組織全体の価値創造力を高めることが目利き力の向上であり、当社の競争優位性の源泉となっています。

写真でたどる、ネットワンの軌跡



1. 1988年 ネットワンシステムズ初の会社案内

2. 1992年 業界初のリモート監視サービスを提供

3. 1999年 新卒向け会社案内より
若かりし日の竹下社長

4. 2001年 東京証券取引所 市場第一部に株式を上場

5. ネットワンミュージアム
当社の沿革と共に当時の取り扱い商材を展示

6. 2005年 天王洲アイル時代のテクニカルセンター

7. 2008年 20周年の企業広告

8. 2013年 本社を東京・丸の内へ移転
9. 2014年 “超”垂直統合型アプライアンス製品
「EVO:RAIL」

10. 2017年 ファミリーデーでビデオ会議体験

11. 2020年 大分トリニータホーム戦でネットワン主催
イベントを実施、スタジアムにロゴが大々的に掲出

12. 左: ネットワンのマスコットキャラクター
「コアルータン」
右: 大分トリニータのマスコットキャラクター
「ニータン」

13. 2025年2月18日 ネットワンシステムズ上場最後
となる臨時株主総会

編集後記

本企画は、当社が設立後37年にわたり築いてきた価値と、豊かな未来に向けて挑み続ける意志を言語化し、受け継いでいくことを目指しました。

今回の取材や寄稿を通じて、社会課題の解決に取り組む現場力や、豊かな未来への熱意に触れ、最後までやり抜く意志と、将来を見据えた情熱を感じました。

当社は今、これまでに大切にしてきた文化を未来に伝えながら、次のステージに挑む、転換期を迎えています。この変化の中で、ステークホルダーの皆様から寄せられる期待こそが、挑戦の原動力です。その期待に応えるべく、私たちは人とネットワークの可能性を信じ、変化の先に広がる未来を皆様と共に描く存在であり続けます。

最後に、取材や寄稿にご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。そしてこのレポートが将来にわたりネットワンのDNAとして受け継がれることを期待しています。

ネットワンシステムズ IRチーム一同



企画・編集・制作メンバー

会社概要 (2025年3月31日現在)

設立	事業内容
1988年2月1日	世界の最先端技術を取り入れた情報インフラ構築とそれらに関連したサービス及び戦略的なICT利活用を実現するノウハウの提供
資本金	
122億79百万円	
従業員	
2,661名	
本社所在地	
〒100-7025 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 JPタワー	

Brand Story



「匠」の字を意匠化したロゴマーク

ロゴマークは当社の「匠の技と心」を意匠化したものです。優れた技術でさまざまな素材をすり合わせ、使いやすいものに整えた上でお客様にお届けするという、日本ならではの「匠の技と心」を目指す理想像としています。当社は、ネットワークをつなぎ、人と人をむすび、互恵の心でお客様とお互いの価値を高め合うパートナーであり続けます。

net one report 2025

発行	著者
2025年9月30日	ネットワンシステムズ株式会社
企画・編集	制作
管理本部 広報・IR部 IRチーム	株式会社ブレーションセンター
村元 裕二、西田 武史、内田 亮、今村 友美	

Special Thanks
「これからのネットワンに期待すること」にご協力いただいた皆さん
榎本 博一さん、平山 大志さん、嶋形 直樹さん、相原 正彦さん、石谷 憲弥さん、兼松 智也さん、西嶋 孝夫さん、風間 純子さん （順不同）

表紙デザインについて
当社グループが、ネットワーク技術で縦横無尽に可能性を切り拓いていく姿を、コーポレートロゴの特徴である丸みのある曲線で表現しました。多彩な色は、多様な価値観を尊重し、共に課題解決を目指す当社グループの企業風土を示しています。